

環境負荷の低減

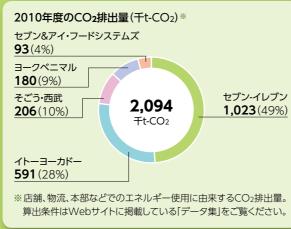








行動指針」において「事業活動を行うに当たって資源の 有効利用・再資源化、省エネルギー、廃棄物の削減、口 ことにより、豊かで健康的な社会の環境作りに貢献す ることと、「地球規模の自然環境保護活動を積極的に



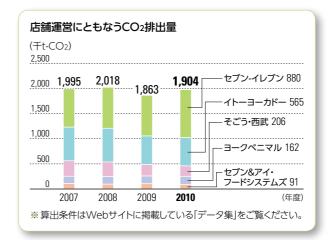
Web Webサイトでの主な開示項目 http://www.7andi.com/csr/

- ●活動方針(セブン&アイHLDGS.企業行動指針/環境指針・環境規約/環境宣言・地球温暖化防止に関する基本方針)

エネルギー効率の向上と 再生可能エネルギーの導入

「省エネ型の店舗づくり」と 「物流の効率化」の両軸から 低炭素社会の実現をめざしています

セブン&アイグループの事業活動にともなって発生 するCO2は、その約91%が店舗の運営によって、そし て約8%が商品配送にともなって排出されています。こ うした現状を踏まえて、グループ各社では日常的な店 舗での環境負荷の低減に努めるとともに、物流の効率 化などに取り組んでいます。



イトーヨーカドー

ソーラーパネル

売場の約8割と通路やトイレなどでLED照明を導入。ショッピングセンター 全体の7割(約13,000台)をLED照明にすることで、従来の照明と比較して 消費電力は約半分、年間で約554トンのCO2削減効果が期待されます。

セブン&アイグループの店舗では、照明や空調、冷

蔵・冷凍設備などを中心に電力を消費しています。そう した電気使用量を削減するために、新規出店時や改装

例えば、照明については、蛍光灯よりも長寿命で消費

また、セブン-イレブンでは、店舗によって電気使用量

に差がある原因を分析して、改善に向けた取り組みを

推進する新たな試みを開始しています(次ページ参照)。

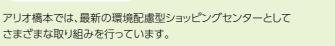
時に省エネルギー型の設備を導入しています。

電力も少ないLED照明を積極的に導入しています。



充電器を1基設置

省エネ型の店舗づくり





時間の空調に利用する「氷蓄熱システム」

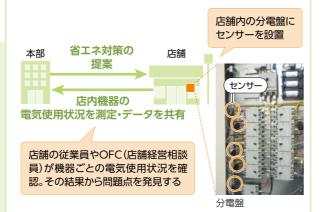
「太陽光発電パネル」を3カ所、「風力・太陽 光発電付き外灯」を10基設置。この外灯は 蓄電できるため、不日照でも日没から約7 時間、4日間にわたって点灯可能

※店舗、物流、本部などでのエネルギー使用に由来するCO2排出量。

セブン・イレブン

2010年7月から産業技術総合研究所とNECが開発したスマートセンサーを西東京地区の11店舗に設置。このセンサーによって、店内の主要な設備機器の電気使用量が「見える化」され、設備の使用上の問題点が見えてきます。

その問題点を改善し、省エネにつながる活動を実施した 結果、前年同月比10%以上の電気使用量の削減を実現しま した。このセンサーの効果が高かったことを受けて、2011 年度は導入店舗を大幅に増やしていきます。



イト(天窓)を導入し、さらに外灯や店舗看板にLED照明を採用している「環境配慮型店舗」を開店しています。環境配慮型店舗には、これらのほかにも廃熱を利用した給湯器や省エネ型の空調機などを導入しており、既存店と比べて電気使用量が年間30%削減される見込みです。

屋上に太陽光発電パネルと太陽光を取り入れるトップラ

ゼ セブン-イレブン

2011年2月末現在、北海道に18店舗の木造店舗を出店しています。木造店舗は一般的な鉄骨づくりと比べて、製造時のCO2排出量が少ないという利点があり、2009年度から出店を開始しました。今後も継続して出店していく予定です。



建設中の木造店舗

TOPICS

(2011年2月末現在)

📝 セブン銀行

省エネルギー性能をさらに高めた 第3世代ATMを開発

セブン銀行は、新型ATMの開発にあたって徹底した省エネ設計を推進しました。第3世代ATMは、取引時間以外は常に省エネモードが適用され、また2つある画面のバックライトにはLEDを使用するなどの工夫をしています。これらの取り組みによって第2世代のATMに比べ、1台当たりの消費電力を約48%削減しました。また、ATMには寿命が長い部品、リサイクル可能な素材を使用しています。

こうした省エネ設計が評価され、「グリーンITアワード 2010 ITの省エネ部門」(「グリーンIT推進協議会」主催) で審査員特別賞を受賞しました。



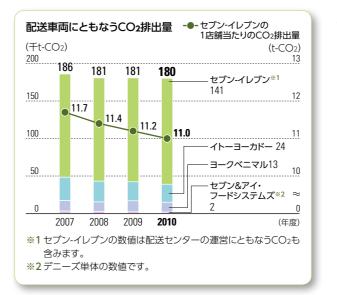


効率的な物流

セブン&アイグループでは、環境配慮型車両の導入 を進めているほか、燃費改善、店舗への配送回数の削減などの取り組みをしています。

セブン-イレブン、イトーヨーカドー、ヨークベニマルでは、商品の種類や温度帯が異なる商品でも一括して店舗に配送できる物流センターの設置位置の見直しや、中間センターの設置をそれぞれ進めています。セブン&アイ・フードシステムズでは、配送車両台数の削減と配送回数の見直しを行っています。

ほかにも、セブン・イレブンとイトーヨーカドーでは、 トラックの走行状況を記録する車載端末の導入を進め ており、データに基づいた運行指導やエコドライブ講 習会を実施しています。



TOPICS

をブン・イレブン

「ロジスティクス大賞」を受賞

2010年10月20日、セブン・イレブンは「2010年 度ロジスティクス大賞」(公益社団法人日本ロジス ティクスシステム協会主催)を受賞しました。

これは、ロジスティクスの高度化推進に向けて優れた実績をあげた企業を表彰するもので、セブンイレブンが店舗までのフローズン物流の仕組みを見直し、「物流品質とサービスレベルの向上」「合理的コスト低減」などを実現したことが評価されたものです。

環境負荷の適切な把握

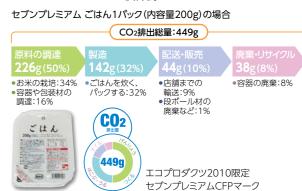
サプライチェーンにおける 環境負荷の把握に努めています

セブン&アイグループは、2008年6月に「地球温暖 化防止に関する基本方針」を制定し、そのなかでCO2 排出量の適切な把握と検証を掲げました。その一環として、2009年度はセブン&アイHLDGS.本社と国内事業会社5社が、2008年度のCO2排出量データについて第三者機関からレビューを受けたのに続き、2010年度にはプライベートブランド商品のサプライチェーンにおけるCO2排出量の算出を開始しました。

「セブンプレミアム」のカーボンフットプリントを試算

2010年度、「セブンプレミアム」の食料品と住居関連品の合計15商品について、原材料の調達・加工(製造)・配送・販売・廃棄までのCO2排出量を試算しました。2011年度は、この結果をもとに、お取引先と連携しながら、効果的な排出量削減のための取り組みを進めていきます。

カーボンフットプリントの試算例



代替フロン機器に交換

セブン&アイグループの店舗では、フロン使用機器を店舗改装時などに代替フロン機器に交換しています。またフロン類の漏洩を素早く見つけるために毎日温度点検を実施しており、機器廃棄時には法律に則って専門の業者にフロンの回収を依頼。業者から発行される引渡し書で適正な処理を確認しています。

16



廃棄物の削減と循環型社会の構築

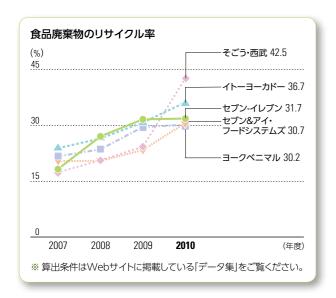
食品リサイクル率の向上と レジ袋使用量の削減に 注力しています

近年、廃棄物の削減やリサイクルに対する注目が高まっており、企業の活動においても、廃棄物の発生量の抑制や、再生利用の取り組みなどが求められています。

食品リサイクル率の向上

2007年12月に改正された食品リサイクル法では、2012年までに食品小売業は食品リサイクル率を45%に、外食産業は40%にするという目標が定められています。セブン&アイグループでは、主要5社の売上高に占める食品の比率が約6割と高いことから、「食品リサイクル率の向上」を重要テーマに掲げています。

ヨークベニマルでは、魚のアラを養鶏の飼料に加工し、この飼料で育った鶏の卵を「健養卵」として販売しています。セブン・イレブンでは、販売期限が切れた食品のリサイクル実施地区を拡大させています。2010年度には、新たに横浜市、富山市などでも開始。2011年



2月末現在、2,422店舗で回収し、堆肥や飼料にリサイクルしています。また、フライヤー(揚げ物用調理什器)を導入している全店舗11,110店舗で発生した廃食油は、飼料原料・工業製品・燃料にリサイクルしています。

セブン&アイ・フードシステムズのデニーズやファミールなどでは、野菜くずやコーヒーかすを堆肥化・飼料化しているほか、メニューの開発を担う本部テストキッチンで発生する生ゴミ全てを処理施設に運搬し、メタンガスにしています。

TOPICS

【 イトーヨーカドー

"完全循環型"の 食品リサイクルシステムをめざして 農業生産法人を設立

2008年8月に、イトーヨーカドー、富里市農業協同組合とその組合員の共同出資により農業生産法人「(株)セブンファーム富里」を設立しました。千葉県内のイトーヨーカドー7店舗から排出された食品残さを堆肥化し、この堆肥を利用して野菜を栽培。収穫した野菜を県内の10店舗で販売しています。また、従来は生産段階で廃棄していた規格外野菜の販売も可能となりました。

「セブンファーム富里」に続き、2010年9月には「セブンファームつくば」を、10月には「セブンファーム三浦」「セブンファーム深谷」を設立。2012年度末までに全国で計10カ所展開することを計画しています。

また、こうした循環型の生産システムや地元野菜 の良さを知っていただくために、お客様をお招きし た農場体験も行っています。



レジ袋の使用量を削減

セブン&アイグループでは、レジ袋の使用量の削減に取り組むために、お客様への声かけやエコバッグの販売、啓発ポスターの掲出を行っています。さらに、イトーヨーカドー、ヨークベニマル、そごう・西武では、お客様がレジ袋を辞退する意思を表しやすいようにご辞退カードをレジ横に設置。そのほかにもイトーヨーカドーとヨークベニマルでは、辞退者への値引き、行政や市民団体との協定に基づくレジ袋の有料化などを実施しています。



食品の容器包装を削減

食品を多く取り扱い、店内加工や調理もしているイトーヨーカドーとヨークベニマルでは、容器包装の使用量の削減や素材の見直しをしています。例えば、一部の店舗で、ブロック肉をトレイではなく、ポリ袋や真空パックに入れて販売しています。そのほか、包装材自体の工夫として、植物性プラスチック原料を使用した包装材をカット野菜用包装材に導入しています。植物性プラスチック原料は、石油等の化石資源を使用していないため、地球温暖化の原因とされるCO2の絶対量を増やすことがありません。

また、セブン・イレブンでは容器包装の使用量の削減のため、2007年に弁当のラップ包装をテープ止めへと変更し、2011年2月に全国への拡大を完了しました。



イトーヨーカドーの包 装材に植物性プラス チック原料を使用した カット野菜

> 維物由来の原料をトレーとフィルムに使用しました。 (トレーは100%、フィルムは一部植物原料を使用) 植物生まれのバッケージはCO2の排出を おさえることができます。 マコライフ まず!!!サラダから!!! めアみませんか

セブン-イレブンの テープ止めしたお弁当



TOPICS



店舗の建材や什器を再利用

店舗の建て替えや閉店の際に出る商品陳列棚や什器は廃棄せずに、整備後にほかの店舗で再利用しています。また、店舗解体時に発生する建設廃棄物を削減するために、再利用できる鉄骨やリサイクルできるサッシを使い建設しています。2010年秋には、店舗を解体してまるごと新しい場所に移築をした店舗を開店しました。

Web 以下のWebサイトで移築の様子をまとめた動画をご覧いただけます。 http://www.7andi.com/csr/ecoproducts.html



18



環境に配慮した商品の提供

お客様にエコなライフスタイルを ご提案しています

環境に対するお客様の関心が高まるなか、企業に とっては、品質を高めて「安全・安心」を確保するだけで はなく、商品やサービスを通して、お客様のライフスタ イルを環境配慮型に移行させていくことも重要な役割 となっています。

セブン&アイグループでは、有機栽培の食品やオー ガニックコットンの衣料・住居関連商品など、各事業会 社の商品特性に合った商品を販売しています。



Robinson's



NPO法人環境リレーションズ研究所 の植樹活動「プレゼントツリー」

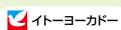
お客様の社会・環境貢献への参加をお 手伝いしています。お客様に包装料金 をご負担いただくサービス「グリーン ラッピング」と、お中元・お歳暮で包装 紙を省略した「簡易包装」にご協力い ただいた件数などに応じてNPO法人 環境リレーションズ研究所の植樹活動 「プレゼントツリー」に寄付をしていま す。2010年度は合計1,065本の植樹 につなげることができました。



ラッピング

イトーヨーカドー

2009年4月から、生産地の自然環境に配慮 した農法で生産されたコーヒー「グッドイン」 サイド」認証コーヒーを販売しています。「



☑ ヨークベニマル

Thet セブンネットショッピング

1本につき10円が富士 山の自然環境保護活動 の活動費に充てられるマ グボトルを販売。キャン ペーン期間約5カ月間で 総額30万円をNPO法人 富士山クラブに寄付しま した。

イトーヨーカドー

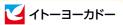
販売利益の一部が沿岸環境の保全、再生、創出や自 然と共生する海辺づくりに関する事業に充てられるス テンレスボトルと浄水器を販売。キャンペーン期間の 12日間で総額100万円をNPO法人海辺つくり研究 会に寄付しました。



イトーヨーカドー

売上の一部が寄付される「環 境保全・自然共生型米」シリー ズを販売しています。2010 年11月6日には、「朱鷺と暮ら す郷づくり認証米 新潟県佐 渡産こしひかり」の売上の一 部約65万円を佐渡市トキ環 境整備基金へ寄付しました。

TOPICS



セブン-イレブン

国産木材を利用した「カートカン(紙製飲料缶)」で、森林の育成に貢献

イトーヨーカドーとセブン・イレブンの一部店舗では、 国産木材を30%以上使用している紙製飲料缶「カート カン」を積極的に販売しています。この商品を販売する ことで国産木材の利用量が増え、樹木を「植える→育て る→活用する→植える」というサイクルが円滑になり、 健全な森づくりにつながります。

このカートカンの積極的な販売に対して、2010年 12月、セブン&アイHLDGS.に農林水産省から感謝状 が贈られました。





2011年2月9~22日には、企業4社と共同で、 カートカンを使ったCO2排出権取引の実証実験 を実施。これは商品を購入したお客様に「排出権 シール」を譲渡し、オフセット先を自由に選択で きるようにしたもので、世界初の実証実験です。

従業員への環境啓発

グループ全員が参加できる活動を 積極的に実施しています

セブン&アイグループでは、従業員の環境への意識 が高まるように、各種啓発活動を行っています。

例えば、従業員向けの環境活動を企画。ボランティ アを募り、「セブン・イレブン記念財団」と共同で年2回 三宅島の緑化活動を開催しています。

また2010年8月から10月にかけて、グループ全 従業員を対象に、家庭での省エネを後押しするキャン ペーンを開催。3カ月にわたって各家庭で電気使用量の 削減に取り組み、前年同期比で約34,000kWhの電気 使用量を削減することができました。これは約120世 帯分の1カ月の電気使用量に相当します。

🜌 セブン銀行

毎年、従業員とその家族向けの環境活動を実施しています。 2010年度は、32人がネイチャーガイドとともに富士山麓の森 を散策。国有林に捨てられたゴミの回収もし、自然を守ること の大切さを学んでいます。



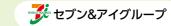
生物多様性への対応

インドネシアの国立公園で熱帯林 保全活動を支援しています

熱帯林はさまざまな生物が暮らす場所であり、気候 の調節機能や食べ物、医薬品など熱帯林の恩恵は計り 知れません。その一方で、熱帯林は違法伐採やプラン テーションへの転換、開発による炭素の放出、生物多様 性の喪失、労働賃金の低さなどの問題を抱えています。

セブン&アイグループは生物多様性の保全と気候 変動対策にも効果があり、同時に住民生活も向上させ る「REDD+*」プロジェクトを支援しています。2010 年、2011年とCSR担当者が現地を視察し、プロジェク トの進捗を確認しています。

※REDD+:森林減少・劣化による温室効果ガスの排出を削減すること。



- プロジェクト期間:2010年からの4年間
- プロジェクト地:インドネシアジャワ島東部の メルベチーリ国立公園
- ●面積:約58,000ha
- ●セブン&アイHLDGS.の関与:

プロジェクト費用を「ITTO(国際熱帯木材機関)」に寄付

Web 熱帯林保全プロジェクト(英)

http://www.7andi.com/en/csr/ indonesia.html



小学校裏庭で 小学生自身が植樹

TOPICS

セブン-イレブン

一般財団法人セブン-イレブン記念財団

地域に根ざした環境市民活動を支援

セブン-イレブンの店頭に寄せられた募金は、セブン-イレブン 本部からの寄付金と合わせて「セブン-イレブン記念財団」に送ら れます。募金は公募助成を通した環境NPO支援や、地球温暖化 防止活動、自然環境保護・保全活動などに活かされています。

Web 一般財団法人 セブン-イレブン記念財団 http://www.7midori.org/

募金総額

助成先件数

助成総額

1億3,063

20

環境負荷の低減

取り組み課題に対する主要事業会社の2010年度の目標・実績、自己評価

○:目標を達成 △:わずかに届かなかった ×:大きく未達成

					を達成 △:わりかに庙かなかつに ×:大きく木達成
取り組み課題	事業会社	2010年度の目標	2010年度の実績	自己評価	2011年度の目標
環境負荷の 適切な把握	そごう・西武	●ISO14001に基づいた環境データ把握、影響評価の継続 実施	● そごう10店舗にも拡大。2011年2月にISO14001の認証 を取得	0	●ロビンソン2店舗でISO14001に基づいた環境データ 把握を検討
エネルギー 効率の向上と 再生可能 エネルギーの 導入	セブン- イレブン・ ジャパン	●省エネ型店舗を100店出店	●省エネ型店舗: 113店開店(店内LED照明を58店に設置、 太陽光発電パネル・天窓・店内LED照明を設置した「環境配 慮型店舗」を55店開店) ●太陽光発電パネルを52店舗に設置	0	太陽光発電パネル1,000店舗に設置店頭誘導看板のLED化を5,000店舗で実施店内照明のLED化を5,000店舗で実施スマートセンサーを6,000店舗に設置
	イトー ヨーカドー	環境負荷指標(総営業面構へ総営業時間当たりのCO:排出量を1%改善配送車両にともなうCO2排出量を24,163トンとする配送車両の燃費を5.23km/ℓとする外壁文字看板のLED化を拡大して合計95店舗に導入	●環境負荷指標: 76.7(前年度比6%の悪化)●配送車両にともなうCO2排出量: 24,017トン●配送車両の燃費: 5.14km/ℓ●外壁文字看板のLED化: 114店舗	Δ	●環境負荷指標を1%改善 ●配送車両にともなうCO2排出量を前年度比1%削減
	ヨーク ベニマル	●CO₂排出量の削減●電気、水、ガス、重油の総使用量の削減●総走行距離数の削減、エコドライブの推進による軽油使用量の削減●新店でのLED照明の導入とオール電化店舗の拡大	●オール電化の店舗数: 17店舗	0	●7月1日~夏季期間の電力使用量を15%削減 ●配送車両の燃費向上 ●新店でのオール電化店舗の拡大
	そごう・西武	消費電力原単位(営業面積×営業時間)当たりの使用量の 削減店舗売場などへのLED照明導入の推進納品代行システムの推進による店舗納入車両台数の削減	● 夏場の高気温により消費電力原単位が137.49Wh/(mh) (前年度差+0.99) ● 店舗改装時にLEDなどの省エネ照明を導入(池袋本店食品、婦人雑貨、婦人服、インテリア、レストラン街ほか) ● お取引(特に納品代行システムの利用を徹底。店内への搬送方法を効率化させることと、店での受け取り日時を徹底させることで納品車両の滞留時間を削減	Δ	●CO₂排出量を1%削減 ●電力不足を受けて、電気使用量のさらなる削減策を 検討、LEDなどの省エネ照明の導入拡大を検討
	セブン&アイ・ フード システムズ	LED電球の導入によりCO2排出量を17トン削減店舗への配送車両台数の見直しなどにより、配送車両にともなうCO2排出量を2,059トンにする	●デニーズ6店舗でLED電球を導入し、CO2排出量17トン削減 ●店舗への配送車両台数の見直し及び週6回の配送により、 排出量が1,904トンと目標を達成	0	LED電球導入の店舗を拡大し(デニーズ30店舗目標) CO2の排出量を前年度の削減量の約5倍である90トン削減 配送台数をさらに見直し、下期から週5回配送を計画。 配送車両にともなうCO2排出量を前年度比8%削減
廃棄物の 削減と 循環型社会の 構築	セブン- イレブン・ ジャパン	●木造店舗を15店出店 ●日本フランチャイズチェーン協会の統一目標である1店舗当た りのレジ袋使用重量を2000年度比35%削減することを維持 ●食品廃棄物のリサイクル率の向上 ●グリーン購入比率の向上	●木造店舗を16店出店(累計18店)●レジ袋使用重量: 2000年度比37%削減●食品廃棄物のリサイクル率: 31.7%(前年差+0.2ポイント)●グリーン購入比率 数量比: 64.3%、金額比: 58.9%	0	●レジ袋削減ポスターの掲出およびお客様への声かけにより、レジ袋使用重量を削減●食品廃棄物のリサイクル率を33.7%以上にする
	イトー ヨーカドー	食品廃棄物のリサイクル率を35%、リサイクル実施店舗数を70店舗2010年度の最終月のレジ袋辞退率を50%再生トレイ導入によりCO2排出量を150トン削減	●食品廃棄物のリサイクル率: 36.7%、リサイクル実施店舗数: 77店舗●2010年度最終月レジ袋辞退率: 42.9%●精肉と鮮魚売場での再生トレイの利用を拡大したことで、CO2削減効果が614トン	0	●食品廃棄物のリサイクル率を40%、リサイクル実施店舗数を90店舗に拡大●2011年度の最終月のレジ袋辞退率:50%●再生トレイの利用を拡大し、CO2削減効果800トン
	ヨーク ベニマル	●レジ袋有料化店舗の拡大 ●通い箱の利用を拡大 ● 魚腸骨以外の食品廃棄物のリサイクルを推進 食品廃棄物リサイクル実施店舗の拡大 ●店舗回収資源物の質の向上 (汚れが付いたトレイなどが少なくなるよう啓発活動を実施) ●ぱう売り・はかり売りのノントレイ商品の取り扱いを推進 ●エコトレイの新店への導入を継続 ●廃棄物排出量の削減推進	新たに25店舗でレジ袋の有料化を開始通い箱の利用: 前年度比125.4%魚腸骨以外の食品廃棄物のリサイクルは進展せず	Δ	_
	そごう・西武	●廃棄物リサイクル率: 58.8%●食品廃棄物のリサイクル率: 35.7%●簡易包装(スマートラッピング)のおすすめによる一般包装紙、基本手提げ袋使用の削減推進	●廃棄物リサイクル率: 58.2%●食品廃棄物のリサイクル率: 42.5%●包装紙手提げ袋: 551トン(前年度比97.8%)	0	さらなる分別の徹底により、廃棄物リサイクル率: 60%、食品廃棄物のリサイクル率: 43.5%お客様への簡易包装のお勧めにより、包装紙手提げ袋の削減水準を維持
	セブン&アイ・ フード システムズ	●食品廃棄物のリサイクル実施店舗数を合計200店舗に拡大する●制服クリーニング水の循環利用の継続と新店への導入	●生ごみと廃油のリサイクル実施店舗を合計386店に拡大●食品廃棄物のリサイクル率: 30.7%	0	●廃棄物の分別を強化し、食品廃棄物のリサイクル率を 33%以上にする
生物多様性 への対応	そごう・西武	●中元歳暮ギフト簡易包装、グリーンラッピングと合わせた 植樹・育樹活動を継続して推進	●中元歳暮簡易包装実績373万件、グリーンラッピング 8,183件により1,065本分の植樹寄付を実施	0	中元歳暮ギフト簡易包装、グリーンラッピングと合わせた植樹・育樹活動の認知度向上により1,100本の植植を目標
環境に配慮した 商品の提供	そごう・西武	●環境選定商品の販売を推進、エコバッグの販売を促進	●商品部の選定基準7項目に沿って、45品目を新規に認定●オリジナルエコバッグに一般ブランド品を加え、年間売上 高前年度比314.5%の6,994万2千円	0	新型エコバッグの導入 環境重点月間である6月と10月を中心とした環境商品の提案を継続実施
従業員への 意識啓発	セブン- イレブン・ ジャパン	加盟店向け機関誌への情報掲載、号外を通じたタイムリーな情報発信従業員向け省エネキャンペーンの実施環境情報の継続発信	機関誌に清掃活動など環境関連の情報を発信キャンペーンへの参加人数: 4,415人	Δ	●従業員向けの省エネキャンペーンへの参加者数を拡大 ●ホームページでの公開情報を充実
	そごう・西武	●環境eラーニングによる教育の継続実施	● そごう・西武全店で対象社員全員である5,228人が 環境eラーニングをオンラインで受講	0	●環境eラーニング対象者の完全受講●環境ニュース、テーマ等社内ツールを活用し、従業員の省エネ・節電に関する意識をさらに醸成
	セブン&アイ・ フード システムズ	●会議や研修で分別意識、廃棄物削減、省エネに関する教育を推進	ごみ分別の重要性および廃棄物減量の取り組みについて、 会議・研修での意識向上を実施。また、年4回店舗に省エネ 教育の資料を配布	Δ	●定期的な会議・研修を実施し、店舗の廃棄物に関する問題点を集約することで改善策を立案・実行●年6回店舗に省エネに関する資料を配布し、全従業員の意識向上を図る

※セブン銀行の2010年度の実績と2011年度の目標は、 Webサイトのデータ集で報告しています。

事業特性に配慮した効果的な 環境負荷の低減にハードとソフトの 両面で取り組んでいきます

セブン&アイグループは、コンビニエンスストア、総 合スーパー、百貨店、食品スーパー、レストランなど事 業内容が異なる会社で構成されています。グループ全 体の方針である環境負荷低減のため、異なる事業特性 を考慮した対策が重要です。

エネルギーの使用用途で、冷蔵・冷凍設備の割合 が高いコンビニエンスストア、照明の割合が高い総合 スーパー、空調設備の割合が高いレストランなど、用途 別にエネルギー使用量を検証し、各社で優先順位をつ けて効果的な対策を実施しています。

セブン-イレブン店舗には、最新の省エネ機器を導 入するとともに、日頃から従業員の節電意識が高まる よう、設備機器ごとに電力使用量が「見える化」できる 「スマートセンサー」を設置しました。このスマートセン サーは食品スーパーでも実験が開始されており、環境 対策についてもグループシナジーを追求しています。

グループ全社の従業員が家庭での省エネに取り 組むきっかけとなるよう「セブン&アイ省エネキャン ペーン(P21参照)」を実施しました。これからも事業活 動を通した環境対策を、店舗だけでなく、原料調達から 製造・加工・物流・販売・廃棄までの全過程で、従業員や お客様、お取引先と協力・連携しながら取り組んでい きます。

セブン&アイHLDGS. 総務部 環境 シニアオフィサー

芹澤 博史

